

見直し後の政策課題(例)

平成25年11月21日
内閣府

見直し後に原子力委員会又は後継組織が残る場合に企画、審議、決定の対象となる可能性がある政策課題の例としては、現在、次のようなものが考えられる。

(1)平和利用

○これまで定例会等でヒアリング・審議等を行ってきた課題

- ・我が国におけるプルトニウム利用の基本的な考え方
- ・プルトニウム利用計画及び利用目的の妥当性の確認及びプルトニウム管理状況の報告
- ・規制担当部局における保障措置活動状況の確認
- ・国際会議の結果報告(核セキュリティ・サミット、核不拡散条約(NPT)運用検討会議の結果報告)

○その他審議対象となりうる課題の例

- ・核関連技術(ウラン濃縮(遠心分離方式)、レーザー濃縮等)に係る研究開発、利用の実施状況を踏まえた今後の対応
- ・輸出管理等の規制状況を踏まえた核関連技術の不拡散の在り方
- ・原子力事業者等における情報管理の在り方
- ・二国間協定等における平和利用の位置づけ

(2)放射性廃棄物の処理・処分を中心としたサイクル政策

○これまで定例会等でヒアリング・審議等を行ってきた課題

- ・長寿命核種の分離変換技術に関する研究開発の進め方の提言
- ・高レベル放射性廃棄物、研究施設等廃棄物、長半減期低発熱放射性廃棄物等の処分に係る制度整備、理解・立地活動等の取組状況の把握及び評価
- ・高レベル放射性廃棄物の地層処分実施に向けての取組を強化するための留意点の提示
- ・六ヶ所再処理施設、第二再処理工場に係る実施・検討状況
- ・高速増殖炉サイクルの実用化に向けた関係者の取組状況の確認

○その他審議対象となりうる課題の例

-長期的な核燃料サイクル諸量等の評価

- ・原子力発電規模、中間貯蔵容量、再処理量の評価
- ・使用済燃料、放射性廃棄物、プルトニウム、劣化・回収ウランの蓄積量や放射性廃棄物処分場の必要量の予測

-処分方策・技術オプションについての評価及び提言

- ・使用済燃料の処理・処分に係る研究開発とその進め方についての提言
- ・低レベル放射性廃棄物について、発生元ではなく性状に応じた一元的な処分方策などの合理化、改善の検討及び提言

-放射性廃棄物の処分を着実にを行う取組のさらなる強化のための提言

- ・処分事業に係る関係省庁の連携の在り方
- ・透明性・公正性と決定過程への国民の参加を促す取組

(3)福島第一原子力発電所事故対応等の重要事項

○これまで定例会等でヒアリング・審議等を行ってきた課題

- ・中長期対策の取組状況の把握
- ・廃炉に向けた実施体制等、規制以外の課題に関する提言
- ・人材の育成・確保、廃炉に向けた研究開発等長期的な課題に関する提言